



耳鼻いんこう科診察室より 耳よいな話



“ネコが顔を洗っていたり、ツバメが低く飛んだいすると明日は雨”などと、聞いたことがありますか？動物は気圧の変化から天気予報ができるようです。トリの仲間は耳に“**傍鼓膜器官**”という気圧のセンサーがあるそうです。

ヒトも動物です。ひょっとしたら内耳に気圧のセンサーがあるのでは？と考えてしまいます。実際に低気圧が近づくと、メニエル病やALHLの方は症状が悪化するとよくおっしゃられます。

重度メニエルの治療の1つに“中耳加圧減圧療法”というものがあります。文字通り、耳に圧力をかけたり圧を抜いたりします。メカニズムは良くわかりませんが、気圧と内耳の関係を考えると興味深いですね？

昔、結核の治療で「**耳が遠くなったり、ふらつくようになった**」という人がいます。結核の治療薬に“**ストレプトマイシン**”という薬があります。副作用で難聴・平衡障害(=内耳障害)が生じ**ストマイ難聴**といわれました。今でも結核の治療に使用することがあり、聴力検査をしながら薬をつかいます。



これを逆手にとった治療が“**内耳破壊療法**”！おそろしい名前です。日常生活に支障をきたすほどめまいがひどいなら「**犯人である内耳をこわしてしまえ**」という訳です。。耳にストレプトマイシンに似た薬を直接注射します。難聴よりもふらつきに副作用が出やすい薬を使うことで内耳のバランス器官を効率よく(?)傷害します。当然、重度のメニエル病に対する最終手段です。

…安心してください。内耳破壊療法(や中耳加圧減圧療法)が必要な重症のメニエルの患者さんは減多にいません！冒頭の話(上)のようにメニエル病じたいが少ないのですから。